



2022年 9月26日
第45号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

9月26日号

明日、国民を二分した安倍元総理の国葬が行われる。最近の世論調査では全主要メディアで反対が過半数を超え、産経新聞・FNNの合同調査では反対が62.3%と高い。

反対の理由は、16.6億円の税金が使われることだけではない。「国葬」に法的根拠がないことと、安倍元総理が何をしてきたかというところにある。

日本は法治国家であり国民主権である。にもかかわらず国会審議を通さず閣議決定のみで国葬を決めた。これは民主主義に対する暴挙である。そして、筆者が一番訴えたいのは安倍元総理が何をしてきたかである。

22日、円安が止まらず24年前の水準である1ドル146円台に迫った。政府は為替介入というカンフル剤を使ったが、効果は限定的だ。

円安の原因は、紛れもなくアベノミクスだ。2013年から続く大規模な金融緩和によって株価は上昇したものの賃金は上がらず、企業の内部留保金だけが増加した。国と地方の債務は1200兆円を超え金利を上げることができず、米国の金利格差は3%となった。このことが円安を引き起こし、出口のない金融緩和は悪循環を生み出している。

食料・エネルギー自給率の低い日本では、円安によって食料品や電気代などが高騰し家計が苦しめられている。しかも賃金は上がらない・・・アベノミクスの弊害はそれだけではない。賃金が上がらないため、日本の技術・頭脳が海外に流出した。日本における一人当たりのGDPは2000年の2位から2021年には28位に、スイスの交際経営開発研究所(IMD)が発表する経済的競争力の国際比較は1989〜92年の4年連続1位だったものが2022年には34位まで低下した。

食料もエネルギーも技術もない日本をいつたい誰が望んだのか。一刻も早くアベノミクスからの脱却を図らなければならない。そのためには、本質を見る目を養うことと、おかしきことには「おかしき」と声を出し続ける勇気を持たなくてはならない。

私は国葬に反対である。諦めるのではなく、たたかい続けなければ、この国は取り返しのつかないところに進むだろう。(Y・W)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。